

「こうかん・くうこう」だより nijima 新島

(平成17年9月発行)

新島空港消防所の紹介

新島空港では、航空機事故若しくは空港内の火災発生など消火救難活動を行うために空港消防所が設置されています。

幸いにも今まで航空機事故は発生したことがなく出動したことはありませんが、航空機事故等が何時起きるかわかりません。

不測の航空機事故発生による人名救助、航空機火災に迅速に対応するために、日々の訓練が欠かせません。

1 新島空港消防所の全景写真



2 新島空港消防所の紹介

新島空港消防所には5名の人員が配置されており、常時3名の職員が空港を365日守っています。

役割分担は、指揮者(救助員)、筒先員、機関員となっており、この3名で化学消防車による消火活動を行うこととなります。



3 化学消防車の紹介

平成14年に更新した化学消防車

- ・消火水 1,200ℓ
- ・化学泡剤 100ℓ
- ・粉剤 150kg

4 放水訓練状況

航空機の離発着の合い間や業務終了後に放水訓練、レスポンス(出動訓練)などの訓練を行っています。

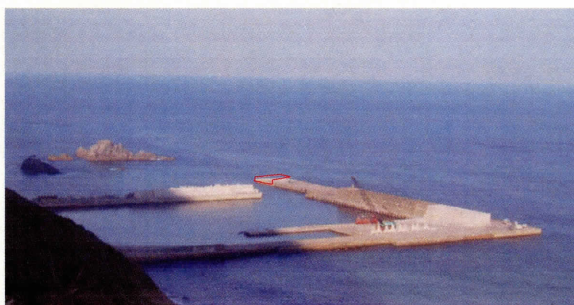
さらに、空港内の様々な事故に対応するための救助訓練や器材取り扱い訓練も実施しています。



羽伏漁港のケーソン据付完了

羽伏漁港（1）防波堤最後のケーソン（長さ25m、幅23.5m、高さ11.5m）の据付が完了しました。

ケーソンは6月に据える予定でしたが、低気圧の影響により海上の状態が悪く、1ヶ月後の7月ようやく据えることができました。今後は、パラペット（胸壁）や背後地の埋め立て等、計画的に工事を進め、安心して船を係留できる港の整備を行っていきます。



大島以遠で初のケーソン据付（若郷漁港）

昭和46年8月、漁港の管理が村から東京都へ移管され、以後、漁港整備の促進が図られることになった。漁港整備の最重点は防波堤の建設であるが、離島という地理的条件から大型機械の導入が困難なこと、波浪のため工事可能日数が少ないことからケーソン工法が話題となった。これまでは、大島以遠へのケーソン曳航は不可能といわれてきたが、当時の港湾計画係長の「非航式のポンプ船を五洋建設㈱がスエズ運河まで曳航しているのに、ポンプ船より安定の良いケーソンをそれより近距離の伊豆諸島へ曳航出来ない筈はない」という意見と、建設課長の「万一失敗した場合は俺が責任をとる」との一言で実行に移し、昭和47年度に東京港でケーソンを製作、翌昭和48年度の曳航、据付に成功し、以後の離島の港湾・漁港工事に大きな飛躍をもたらすきっかけとなった。

（「離島港史」抜粋）



ところで、ケーソンって何？

ケーソンとは、フランス語で「大きな箱」という意味で、防波堤や岸壁に使われる鉄筋コンクリートでできた大きな箱のことをいいます。

